

放送教育（全国放送教育研究会連盟） 課題別・番組別研究交流会 4

テーマ ■ ことばの力をつける

● 活用番組 「わかる国語 読み書きのツボ5・6年」

講 師 前田 康裕（熊本県熊本市立飽田東小学校） 発表者 金井 義明（熊本県熊本市立城東小学校）
金原健太郎（奈良県生駒市立生駒小学校） 制作者 武田 一則（NHK学校教育番組部チーフ・プロデューサー）
司会者 金子 実（横浜市立上大岡小学校） 記録者 山村 泰弘（横浜市立橋中学校）

1 発表概要

「わかる国語 読み書きのツボ5・6年」を活用した学習指導の実践を発表した。金井義明先生の実践報告は、番組を見て学んだことを視点にして作成したニュース原稿を、さらによりよいものにするをめざした。まず、4番組の活用を考えたが、すべての番組を一斉に視聴し、指導する余裕はない。そこで、4番組の並列視聴を考えた。これは児童を4つのグループに分けてそれぞれ1つの番組を視聴した後、番組についてのプレゼンテーションをすることで学びが深化し、共有が進み、活用ができた。そして、それらを元にしたニュース原稿を使い、番組を作成した。

同じ番組を活用した金原健太郎先生の実践報告では、自分の意見や感想・気持ちなどを、理由をつけて具体的に説明する力（論理力）や相手の発言を聞き、それに対する意見を持ったり、自分の考えを深める力（批判力）をつけさせるためこの番組を活用し、討論会を行いながら学習を深めることができた。

2 研究協議内容

ニュース番組をつくるための原稿の推敲をするために番組を使ったが、本当にそれが妥当な番組かの選択という視点で考える余地がある。並列視聴のみならず児童が持つ理解力には差がある。児童自らがもっとリーダーシップを発揮できる手だてを考えておくこともあってよかったと思われる。推敲した原稿への教師側の評価を明確にしておくことも大切である。

討論会をしていく上で、番組を活用した点はよかった。最初の討論会は理由を単に述べるだけに終わってしまったが、番組視聴後は相手の反応を見た上で、自分たちの反論をしていくことができるようになっていったのがよく分かった。討論のポイントをおさえた上で、問題点をしっかりおさ



える力をつけていきたい。

3 指導・講評

「わかる国語 読み書きのツボ5・6年」は番組の構成内容が同じなので、指導内容に合わせて活用できる。討論会などで説得力のある話し方を工夫するのも良いヒントとなるであろう。注意する点は、討論が白熱し、感情的になったり、論点がポイントからずれたものにならないように学習活動を支援していくことが重要である。そのために番組視聴を通して、論理の組み立て方、マナーを確認させておくことも忘れてはならない。発表することは簡単にできることが多い。しかし、反論となると難しい。相手を認める部分と論理的に弱い部分を精査し、議論を深めていく姿勢を育てていかなければならない。

並列視聴はすばらしい試みで、みんなに伝えるために番組を今まで以上によく見たと考えられる。これらは学びの深化、プレゼンによる学びの共有につながったことは明らかである。

4 まとめ

「わかる国語 読み書きのツボ5・6年」は使い易い番組である。討論についての学習に有用だけでなく、文章の推敲についての学習などシリーズすべてを使わず、特定の回を利用していけばよい。また、この番組の内容を考えると他の教科や特別活動での活用も考えられる。幅広く番組を活用していくことが期待される。